「(仮称) 住田遠野風力発電事業」環境影響方法書に対する知事意見

1 総括的事項

- (1) 配置等が確定していない現段階では、予測及び評価に一定の不確実性があることから、環境影響評価項目の不確実性の程度を整理し、評価項目及び手法等の選定に影響を与える新たな事情が生じた場合には、必要に応じて評価項目及び手法等を見直すなど、適切に評価を行うこと。
- (2) 当該事業の事業実施区域周辺において他の事業が計画されており、環境影響が複合的となるおそれがあるため、他の開発事業者と調整のうえ、複合的な環境影響に係る調査、予測及び評価を実施し、その結果を準備書に示すこと。
- (3) 事業計画の熟度に応じて、更なる事業実施区域の絞り込みを行う場合には、その過程を分かりやすく示すとともに、調査、予測及び評価の結果に基づく風力発電設備の構造・配置の検討経緯を明らかにし、準備書以降に記載すること。
- (4) 環境影響の予測を行うに当たっては、入手できる最新のデータを用いるとともにできる限り定量的な手法を用いること。
- (5) 風車の設置や資材運搬のための道路の拡幅工事等に伴う土地の改変は最小限となるよう配慮し、供用後は改変部分を適切な方法により復元するよう努めること。
- (6) 事業を進めるに当たっては、周辺地域住民に対し十分に事業内容等について説明し、理解を得るように努めること。

2 個別的事項

(1) 騒音及び超低周波音

騒音については、騒音のみならず超低周波音についても、事業計画の熟度に応じた適切な方法により調査、予測及び評価を行い、その結果重大な環境影響が認められる場合には、風力発電設備等の構造・配置又は位置・規模を含めて再検討すること。

(2) 水環境

水環境については、土砂の流出シミュレーション等を含めた詳細な調査、予測及び評価を行い、土砂の流出を最小限に抑えること等により、周辺の水生物等への影響を回避又は低減するとともに、周辺の水道水源及び井戸水への

影響についても調査、予測及び評価を行い、飲用への影響を回避すること。

(3) 風車の影

風力発電設備等の配置の検討に当っては、住居等への風車の影の影響について調査及び予測を行い、その結果を踏まえて、供用時の住居等への影響を回避、低減するよう配慮すること。

(4) 動物、植物及び生態系

① バードストライク（渡り鳥、コウモリ類を含む）については、対象事業実施区域及び周辺の生息状況について十分な調査を行い、調査結果に基づいてバードストライクのリスクを計算し、国の検討状況等最新の知見を踏まえ可能な限りの回避・低減等対策を検討し、準備書に示すこと。

② 希少猛禽類については、調査、予測及び評価に用いるデータについても、準備書以降の図書に正確に記載すること。

③ 植物については、重要な植物種等に対する重大な環境影響を回避するため、現地調査及び予測を行い、専門家からの助言を踏まえ、環境影響を評価すること。

④ 生態系については、供用後の影響についても調査、予測及び評価を行い、予測及び評価に不確実性が生じる場合には事後調査を実施すること。

(5) 景観

景観については、周辺の施設、住宅への影響や工事が景観に及ぼす影響も含めた調査、予測及び評価を行うとともに、景観法及び地元自治体の条例に定める基準等へ適合させること。